

水と食と農と

さいじょう市長(愛媛県) 伊藤宏太郎
Koutarou Itou



はじめに

西条市は、「名水百選」や「水の郷百選」にも選ばれた「水の都」です。地域の至る所には「うちぬき」と呼ばれる自噴井が掘り抜かれ、市民は、湧出する清浄な地下水によって暮らしを営んできました。西日本最高峰の「石鎚山」を源流とする加茂川や中山川によって涵養されたこの豊かな水は、農業用水や工業用水としても大いに活用され、地域内食糧自給率70%を誇る県内有数の農業を育てるとともに、工業出荷額でも四国屈指の工業を支え、文字どおり市の発展の源泉となっております。

ふるさと

私は、山あいの「黒瀬」と呼ばれる集落で生まれ育ちました。黒瀬集落は、石鎚山の北麓に位置し、急峻な山岳を縫って緩やかに蛇行する加茂川の兩岸にわずかながらの水田が広がり、山裾のあちこちに人家が点在する山村でした。村の中心部を中央構造線が貫いており、河床にはその構造線が見事に露出する日本でも珍しい観察ポイントがありました。

集落全体で110余世帯3百数十人、私の通っていたころの黒瀬小学校でのクラスは12人という小さな山里でありました。伸ばせば、新鮮で栄養価満点の食材を手に入れることができます。生産量日本一の愛宕柿や裸麦、春の七草をはじめ、水稲、メロン、ほうれん草、イチゴや梅など多品目の農産物において県内1位の生産量を誇っており、料理好きには堪えられません。

また、日常の料理だけではなく、漬け物を漬けることも大好きで、野菜をはじめ、柿などの果物も漬けております。漬け物というものは奥が深く、同じ材料で同じ手順で漬けたはずなのに出来上がりは味が微妙に異なり、それがまた楽しみでもあります。今は、本格手作りキムチに挑戦しており、これも出来上がりが楽しみです。



小学生料理コンテストに参加する筆者

だが、豊かな自然の中で村人全員が家族のように仲よくむつまじい合いながら暮らしを営んでいたのです。

「黒瀬郷土誌」(編集・発行 秋山英一)によりまずと、「黒瀬」という呼称は、早く鎌倉時代の文獻にあらわれており、大変に由緒のある地名でありました。

しかし、村は昭和39年の東予新産業都市指定により臨海部に造成された工業用地の水源として建設されたダム(黒瀬ダム)により水没し、ダム湖の湖底に沈んでしまいましたが、いまでも目を閉じると当時の様子が思い浮かびます。

野山を駆けまわり、野鳥や川魚を捕獲し、山野草を採取しながら自然と共に生活していた幼少期の原体験が現在の農・食への思いへとつながっているのかもしれない。

農そして食

農業は、私のライフワークです。幼いころに山の畑で遊んだ影響なのか、



わが母校「黒瀬小学校」



「食の創造館」展示販売コーナー

閑話休題、業務の話となりますが、こうした西条市の食の素材を活かすための拠点施設である「西条市食の創造館」において、当時の食材PRをはじめ、生産者や料理人の方などと連携した加工品の開発や地元食材を使用した料理教室の開催、また食育事業も積極的に行っています。

食育の効果は少しずつ現れているように、地元企業主催の「地産地消」「食育」をテーマに小学生を対象とした料理コンテストでは、大人顔負けの、アイデアに富んだおいしい料理を作る才能豊かな子供がたくさん出現しており、将来がとても楽しみです。

リフレッシュスポーツ

私のストレス解消法の一つがゴルフです。公務中は、車での移動が多く、歩く機会がとれないのですが、ゴルフ場では美しい青空の下、広大な緑の芝生を歩きますので、日ごろの運動不足が解消される

若い時分から農作業を行うことが楽しく、市長となってからも、時間を見つけては畑にでて気持ちのよい汗をかいています。農業は自然が相手ですから、丹精込めた作物が思うように生育しないこともよくありますが、自分の思い通り、いやそれ以上に立派に育ち収穫できたときの喜びはまた格別です。

地域での行事で知り合いの農業者と出会ったときには、農業談義に花が咲き、新しい知識をいただくこともしばしばです。自分が実際に土をいじり作業をすること、作物をいかに食するかということにも強い関心をもっています。

食は人が生きていくために欠かせない材料であると同時に、味覚を刺激するという嗜好性の楽しみでもあります。料理を趣味とする私は、今でも時間が空いたときに自分で料理を作り楽しんでいきます。

西条市は第一次産業が盛んであり、市内でも少し足を



昭和8年頃の黒瀬の様子(写真提供:尾野和夫)

とともに心も開放されます。多くのよき友に恵まれ、その仲間と一緒にラウンドする時間は、私の至福のひとつです。

また、近隣のゴルフ場で開催されるプロトーナメントツアーを観戦することも楽しみです。一流選手の勝負どころでの技術、集中力は格別のものであり、そうした場面を間近で幾度も見ることに、自分のプレーに対する向上心が大きいに触発されます。

水泳も私のストレスを解消してくれるスポーツです。仕事が早く終わりと時間が空いたときには、一人でふらりとプールへ行きます。水の中に入ると、不思議と心と体の緊張が緩む感じになり、何も考えずゆっくりゆったりと泳いでいますと、日ごろの雑事が頭の中から消え去り、心も体もすっきりリフレッシュできて明日からの仕事への意欲が湧いてきます。

最後に

平成7年に市長に就任して以来、「毎日が任期」との強い思いを胸に日々全力で職務に専念してきましたが、時にはリフレッシュが必要であることも痛感しています。

ONとOFFを上手に切り替えながら、今後も市民と共に歩んでいきたいと思っております。